

オミクロン株、感染拡大
感染対策を徹底しよう

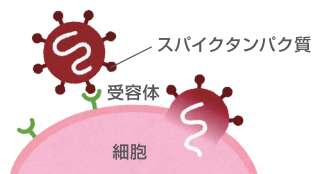
新型コロナウイルスの変異株であるオミクロン株の感染拡大が、世界中で広がっています。日本でも急速に感染が広がっており、流行の第6波を迎えています。今月は、オミクロン株の特徴や、改めて基本の感染対策についてお伝えいたします。

■ オミクロン株について知ろう!



オミクロン株とは?

- 新型コロナウイルスの変異株の一つ。ウイルスの表面にある突起状のたんぱく質(スパイクタンパク質)の遺伝子に**30か所程度の変異**があり、このうち**15か所程度の変異は受容体結合部位**(ヒトの細胞と結合する部位)に**存在**するため、受容体に結合しやすくなり、感染力が高まる可能性が懸念されている。
- **2021年11月24日**に南アフリカから**世界保健機関(WHO)**へ**最初の感染例が報告**された。国内では11月30日に最初の感染例が確認されている。
- オミクロン株にはBA.1、BA.2、BA.3の下位系統があり、現在は世界的にも、国内でもBA.1が主流であるが、デンマークやインド等ではBA.2の占める割合が増加している。BA.2は、一部の国で用いられているオミクロン株のPCR検査では検出されず、ステルス・オミクロンと呼ばれているが、国内で用いられている方法では検出可能である。



参考資料: 国立感染症研究所「SARS-CoV-2の変異株B.1.1.529系統(オミクロン株)について(第7報)」2022年1月26日9:00時点
東京都福祉保健局「オミクロン株に関する情報」



オミクロン株の特徴は?

厚生労働省「第69回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード(令和4年1月26日)」資料1より、「オミクロン株の特徴に関する知見」の内容をご紹介します

【感染性・伝播性】

オミクロン株はデルタ株に比べ、**世代時間が約2日**(デルタ株は約5日)に**短縮**、**倍加時間**と**潜伏期間も短縮**し、**感染後の再感染リスクや二次感染リスクが高く**、**感染拡大の速度も非常に速い**ことが確認されている。



世代時間(感染した人が他の人に二次感染を起こすまでの時間) **約2日**。
倍加時間(累積感染者数が倍増するまでにかかる時間)と**潜伏期間も短縮**。

【感染の場・感染経路】

国内では、多くの感染が**これまでと同様の機会(換気が不十分な屋内や飲食の機会等)**で起きており、感染経路もこれまでと同様に**飛沫やエアロゾルの吸入、接触感染等**を介していると考えられている。

【重症度】

オミクロン株による感染はデルタ株に比べて相対的に入院のリスク、重症化のリスクが低い可能性が示唆されているが、オミクロン株感染による**入院例が既に増加している地域もある**。

【ウイルスの排出期間】

オミクロン株感染症例におけるウイルスの排出については、ワクチン接種の有無にかかわらず**時間の経過とともに減少**し、従来株と同様に**発症又は診断日から10日目以降において排出する可能性は低い**ことが示された。

【ワクチン効果】

初回免疫によるオミクロン株感染に対する**発症予防効果は著しく低下**するが、**重症化予防効果は一定程度保たれている**。また、**ブースター接種**によるオミクロン株感染の**感染予防効果や入院予防効果が改善**することも報告されている。



ブースター接種
(3回目接種、追加接種)
により、**感染予防効果**
・**入院予防効果が改善**



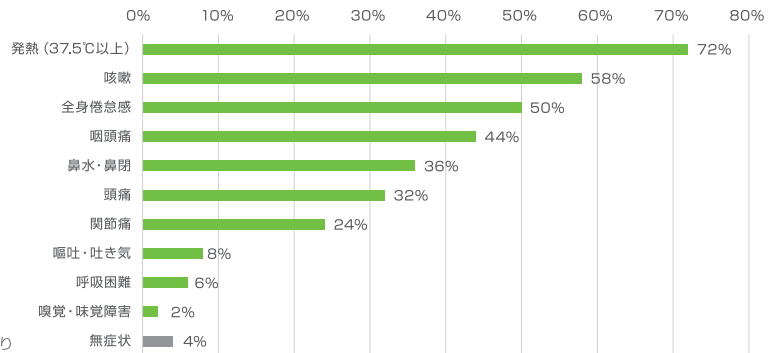
オミクロン株に感染すると、どのような症状があらわれているの？

沖縄県において2022年1月1日までに診断した50人について、保健所の疫学調査に基づき集計されたオミクロン株陽性者の症状では、発熱が最も多く、次いで咳嗽(せき)、全身倦怠感、咽頭痛の順であった。



厚生労働省
「第66回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード(令和4年1月6日)」資料3-5より

オミクロン株陽性者の症状



オミクロン株は、どのような経路で感染するの？

国立感染症研究所実地疫学研究センターの報告によると、オミクロン株感染で感染経路が確認された13事例では、従来株やデルタ株等と同様、**飛沫感染が疑われる事例が多かった**。ただし、一部直接的または間接的な接触による感染の可能性や、換気の悪い室内でのエアロゾル感染が否定できない感染も確認されている。

なお、エアロゾル感染が疑われた事例の頻度が明らかに増えているわけではなく、従来より認識されていたエアロゾル感染が起こりやすい状況(換気が悪い屋内、密、長時間)以外でのエアロゾル感染疑い事例は確認されていない。

感染経路が推定されたオミクロン株新型コロナウイルス感染症の感染事例

事例	感染者数	感染場所	推定感染経路	備考
1	10人	会食	飛沫	自宅での親族との会食
2	13人	会食	飛沫	飲食店での親族との会食
3	5人	会食	飛沫	飲食店での親族との会食
4	5人	会食	飛沫	飲食店での職場同僚との会食
5	6人	会食	飛沫	飲食店での職場同僚との会食
6	6人	会食	飛沫	飲食店での職場同僚との忘年会
7	7人	会食	飛沫	自宅での友人との会食
8	16人	職場	飛沫、ただし、接触や一部のエアロゾル感染は否定できず	職場の密な環境における食事や屋内作業
9	2人	職場	接触、ただし、一部のエアロゾル感染は否定できず	感染者宿泊施設における従業員
10	1人	職場	接触	医療機関外来
11	2人	職場	飛沫	職場の同僚間
12	15人	会食	飛沫	飲食店での友人との会食
13	16人	会食	飛沫、ただし、一部のエアロゾル感染は否定できず	飲食店での友人との会食

国立感染症研究所実地疫学研究センター「実地疫学調査により得られた情報に基づいた国内のオミクロン株感染症例に関する暫定的な潜伏期間、家庭内二次感染率、感染経路に関する疫学情報(2022年1月10日現在)」掲載日2022年1月13日より

新型コロナウイルスの感染対策

変異株であっても個人の基本的な対策は変わりません。マスク着用、手指衛生、3密の回避など、これまでと同様に感染対策を徹底しましょう。

●マスクの着用

会話時は必ず着用



正しく着用
鼻出しマスク、あごマスクはしない



① 鼻の形に合わせ
すき間をふさぐ



② あご下まで伸ばし顔に
すき間なくフィットさせる

外側は触らない



着脱は、
ひもを持って

不織布マスクの推奨



※令和4年1月25日更新
新型コロナウイルス感染症
対策の基本的対処方針

●手洗い・手指消毒

手指衛生の
タイミング



外から戻ったとき



咳やくしゃみ、
鼻をかんだとき



食事の前後



病気の人の
ケアをしたとき



多くの人が触れる
ものに触ったとき

指先・爪の間・指の間や
手首も忘れずに!



●一つの密でも避ける(ゼロ密)



密接
マスクなし×
大声×



密集
大人数×
近距離×



密閉
換気が悪い×
狭い所×